埼玉新聞に掲載されました！

「第77回国民体育大会」（9月17日 宇都宮市）

いちご一会とちぎ国体 2022

競泳

瀬戸 男子200個メ優勝

400少年男子B R埼玉V 背泳ぎ 少年女子A 水野（栄東高）制覇

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」は17日、宇都宮市の日環アリーナ栃木で会期前競技の競泳が行われ、成年男子200㍍個人メドレーは6月の世界選手権銅メダルの瀬戸大也（埼玉・TEAM DAIYA）が1分56秒27で制した。

少年男子B400㍍リレーは埼玉（岩見、神場、会田、細沼）が3分28秒32で頂点に立ち、少年女子A背泳ぎの水野柚希（栄東高）も2分10秒27で栄冠に輝いた。

男子100㍍バタフライは世界2位の水沼尚輝（栃木・新潟医療福祉大職）が51秒62で優勝。成年女子400㍍自由形は難波実夢（奈良・近大）、同100㍍バタフライは相馬あい（青森・ミキハウス）が勝った。

（記録は埼玉関係）

【成年男子】

▽400㍍自由形予選 ①松本輝（自衛隊）3分56秒78＝落選 ▽100㍍バタフライ予選 ②赤羽根康太（自衛隊）52秒17＝決勝進出 ▽同決勝 ⑦赤羽根康太（自衛隊）52秒57 ▽200㍍個人メドレー予選 ①瀬戸大也（TEAM DAIYA）1分57秒60＝決勝進出 ▽同決勝 ①瀬戸大也（TEAM DAIYA）1分56秒27

【成年女子】

▽400㍍自由形予選 ⑤永島遥（東洋大）4分17秒15＝決勝進出 ▽同決勝 ④永島遥（東洋大）4分14秒69 ▽100㍍バタフライ予選 ⑨田嶋玲奈（明大）59秒82＝落選 ▽200㍍個人メドレー予選 ⑨菅美奈実（新潟医療福祉大）2分19秒75＝落選

【少年男子A】

▽200㍍背泳ぎ予選 ②入江泰行（春日部共栄高）2分2秒44＝決勝進出 ▽同決勝 ④入江泰行（春日部共栄高）2分0秒75 ▽200㍍平泳ぎ予選 ③白石快斗（武南高）2分15秒91＝決勝進出 ▽同決勝 ⑦白石快斗（武南高）2分13秒26 ▽800㍍リレー予選 ⑨埼玉（宮木、熊倉、入江、渡辺）7分57秒77＝落選

【少年男子B】

▽100㍍自由形予選 ②神場一樹（春日部共栄中）52秒06＝決勝進出 ▽同決勝 ⑥神場一樹（春日部共栄中）52秒14 ▽100㍍バタフライ予選 ③細沼弘輔（埼玉栄高）55秒69＝決勝進出 ▽同決勝 ②細沼弘輔（埼玉栄高）54秒84 ▽400㍍リレー予選 ③埼玉（岩見、細沼、神場、会田）3分30秒48＝決勝進出 ▽同決勝 ①埼玉（岩見、神場、会田、細沼）3分28秒32

【少年女子A】

▽200㍍背泳ぎ予選 ①水野柚希（栄東高）2分12秒08＝決勝進出 ▽同決勝 ①水野柚希（栄東高）2分10秒27 ▽200㍍平泳ぎ予選 ⑦加藤心富（春日部共栄高）2分31秒40＝決勝進出 ▽同決勝 ⑧加藤心富（春日部共栄高）2分33秒96 ▽400㍍リレー予選 ⑨埼玉（関根、水野、角野、古江）3分53秒50＝落選

【少年女子B】

▽100㍍自由形予選 ⑥園部ゆあら（大砂土中）57秒41＝決勝進出 ▽同決勝 ④園部ゆあら（大砂土中）56秒85 ▽100㍍バタフライ予選 ⑥中島紗希（武南高）1分1秒49＝決勝進出 ▽同決勝 ④中島紗希（武南高）1分1秒22 ▽400㍍リレー予選 ①埼玉（山本、園部、田村、高橋）3分49秒47＝決勝進出 ▽同決勝 ②埼玉（高橋、山本、田村、園部）3分47秒50

成年男子200㍍個人メドレー　1分56秒27で優勝した瀬戸大也（渋谷雅也撮影）

少年男子B400㍍リレー　3分28秒32で栄冠に輝いた埼玉の選手たち

〝ダイヤ〟の笑顔輝く

成年男子200㍍個人メドレーは、瀬戸が1分56秒27で優勝。1分56秒22で3位だった6月の世界選手権と比べて、「水を捉えてプッシュする推進力を感じた。世界選手権より全然、余力で自分のペースでいけた」と、成長を実感する〝ダイヤ〟が笑顔を輝かせた。

瀬戸らしい圧巻の4泳法を披露した。背泳ぎから始まり、平泳ぎ、バタフライ、自由形と一度も先頭を譲らず、2位に2秒以上の差をつけた。ただ、1分55秒台を目標にしていただけに、「フリ（自由形）でもっと上げればよかったし、ブレスト（平泳ぎ）が気になった」と悔しさをにじませた。

今春から練習拠点を東海大に移し、加藤監督の指示を仰ぎ、背水の陣の思いで日々を戦っている。「環境が変わってバタバタする時期もあったけど、非常に充実している」と笑顔を見せ、「強い自分になる兆しが見えている。ここからが楽しみだ」と2024年のパリ五輪に向けて照準を合わせる。苦悩を越えた先に、再び世界で輝く日が訪れる。

（渋谷雅也）

僅差の頂点に雄たけび

少年男子B400㍍リレーは埼玉が3分28秒32で頂点に立った。2位の大阪とは0秒03の僅差。第4泳者細沼がゴールにタッチし、電光掲示板に「1位」と表記されると、埼玉の選手たちが雄たけびを上げた。

51秒75の第1泳者岩見から、2位でスタートした第2泳者神場は「できるだけ1番で渡そう」と理想の泳ぎで先頭に立った。第3泳者会田は「いい形で渡してくれて、速く入ることができた」と序盤からエンジン全開。順位をキープして第4泳者に託した。「競ったときに勝ってくれという思いで託されたと思う」と細沼。自分の役割を心得て、全力を出し切った。

表彰式後も笑顔が絶えない埼玉の選手たち。岩見は「仲間と優勝できてよかった」とで話し、会田は「個人より何百倍もうれしい」とほほ笑んだ。

栄冠手にするも反省

少年女子A200㍍背泳ぎは、栄東高の水野が2分10秒27で栄冠に輝いた。

50㍍を30秒58の2位で折り返すと、100㍍付近で先頭に立った。その後は安定した泳ぎを保ちながらゴールタッチした。だが、納得した様子はなかった。「2分9秒台を狙っていたから悔しい」と語り、「50～100㍍のラップの部分でもう少し練習しないといけない」と反省した。

文武両道を掲げる高校2年生は「日本のシニア選手と戦えるように頑張りたい」とこれからが楽しみな選手だ。

水沼故郷に錦

成年男子100㍍バタフライで水沼が故郷に錦を飾った。高校まで過ごした地元の栃木から出場。期待通り表彰台の真ん中に立ち「勇姿を見せることができてうれしい」と誇った。

銀メダルを獲得した世界選手権後、左肩に違和感を覚えるなど万全の状態ではなかったが、持ち味の後半に強さを見せた。「地元開催で、応援を力に変えて勝つことができた」と感謝を口にした。

埼玉新聞社